

【社会】 < 小学校 第6学年 >

1 結果のポイント

「日本の歴史」については、各時代の人物の働きや代表的な文化遺産を中心に、古代から明治維新までの学習内容をみる問題が出題されている。古墳、大和朝廷、大陸文化の摂取、大仏造営、室町時代の建造物や絵画、キリスト教の伝来、黒船の来航、文明開化などの学習内容をみる問題の正答率はすべて80%を上回っている。

「織田・豊臣の天下統一」「江戸幕府の始まり」については、信長の業績と関連がある資料を選択する力をみる問題、刀狩りの目的を考える問題の正答率はいずれも90%程度である。他方、信長、秀吉、家康の中から、関心のある人物を選択し、その理由を業績と関連付けて表現する力をみる問題の正答率は60%程度であり、資料から読み取った事実を根拠として、自分の考えを表現する力が十分身に付いているとはいえない。

「黒船の来航」「明治維新」「文明開化」については、ペリーの日本来航の目的について考える力をみる問題、黒船の来航と関連がある資料を選択する力をみる問題、「文明開化」の用語の理解をみる問題の正答率はいずれも80%を上回っている。他方、福沢諭吉の業績を年表と関連付けて考える力をみる問題の正答率は70%程度であり、代表的な人物の業績をいくつかの資料と関連付けて考え、表現する力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > 4 の 1

[資料] ア	イ	ウ	エ	[メモ]の中にある、キリスト教を日本に伝えた人物をえがいた絵を、[資料]のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。また、その人物の名前を□の中に書きましょう
				

< 結果 > 4 の 1 の 正答率 87.3% (正答...エ)

4 の 1 の 正答率 82.3% (正答...ザビエルまたはフランシスコ・ザビエル)

< 分析 >

この問題は、「ザビエルの肖像とその業績を理解しているかどうか」を確かめる問題である。

「知識・理解」の力をみる問題は、8問中6問で、正答率85%以上に達し、全体としては良好である。この中で、人物名「ザビエル」を問う問題は、正答率が82.3%である。記述式の問題であるにもかかわらず、正答率が80%を超えたのは、人物とその業績について正確な知識として定着していると考えられる。誤答としては、「織田信長」と記述した児童が多かった。今後も人物の肖像画などを用いながら、人物に対する関心を高め、人物の働きを共感的に理解できるような指導を大切にしていきたい。

(2) 「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

< 問題 > 4 の 4

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人のうち、あなたが最も関心をもっている人を一人選び、その人の名前を□の中に書きましょう。
また、その理由を、[メモ]の中のことばのどれかを使って、□の中に書きましょう。

< 結果 > 4 の 4 正答率 60.8%

< 分析 >

この問題は、「信長、秀吉、家康の中から、関心のある人物を選択し、その理由を業績と関連付けて表現できるかどうか」を確かめる記述式の問題である。誤答としては、「征夷大将軍だか

ら」や「キリスト教を許してすごい」などのようにメモ中の語句のみで記述し、自分の考え方が表現されていない例が目立つ。正答例の中には、「(信長は)日本で初めて鉄砲を活用し、今までにない戦い方を工夫して後の日本に影響をおよぼしたから」などのように人物に関するエピソードも取り上げながら社会に及ぼした影響や意図を考え、積極的に自分の考えを表現しようとするものもみられた。資料から読み取った事実をもとに、自分の考えを交えながら適切に表現する力を育成する必要がある。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 5 の1

 <p>ふくざわゆきち 福沢諭吉</p>	<p>天は人の上に人をつくら ず、人の下に人をつくら ずといへり</p>	<p>下の人物と文章は、年表中のア～エのうち、 どのできごとと関係がありますか。 最も関係が深いできごとを一つ選び、その 記号を <input type="text"/> の中に書きましょう。</p>
---	--	--

<結果> 5 の1 正答率 73.3% (正答...ウ)

<分析>

この問題は、「福沢諭吉の業績を年表と関連づけて考えることができるかどうか」を確かめる問題である。誤答としては、ア「五箇条の御誓文」やイ「学校制度」を選択したものが多い。アについては、「天は人の…」が文章であることに着目して「御誓文」のイメージと重なり、イについては、福沢諭吉と学問との関わりを連想したためと考えられる。同じ「思考・判断」をみる問題で、同様な傾向を示したものは、問題(4「平安時代の様子を資料を活用しながら考えることができるかどうか」を確かめる問題である。いずれも正答率70%前半であった。これらの出題は、複数の資料を関連付けて考えることができるかを確かめることにある。今後は、いくつかの資料を関連づけ根拠を明らかにして考え、判断する力を育成することが一層求められる。

3. 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

学習指導要領では、歴史学習について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心とした学習を一層徹底するなどの改善が図られている。指導内容の厳選を図る観点からも、網羅的な学習にならないよう重点を置くべき部分を歴史上の代表的な事象にとどめ、年間指導計画を作成する必要がある。特に、明治維新、文明開化、大日本帝国憲法の発布から現代に至る歴史については、指導計画を適正に運用するとともに、学習指導要領の「内容の取り扱い 才」に示された人物を確認し、十分な指導時間数を確保したい。

(2) 指導方法の工夫改善

観点別でみると、特に「思考・判断」の力を身に付けさせる指導の充実を図る必要がある。そのために、まず歴史学習では、重点化した歴史的な事象と関連の深い人物を取り上げ、肖像画(写真)や伝記、エピソード(逸話)などを活用し、人物に対するイメージを豊かにもたせ、追究の意欲を高めたい。その上で、各人物の業績を各種の基礎的な資料や年表を活用しながら具体的に調べ、その時代に人物の果たした役割を考え、仲間と話し合う中で理解を深めるような学習過程を工夫する必要がある。こうした学習過程によって、時代の流れの中で歴史的な事象のもつ意味を把握させることが大切である。また、単元指導計画や単位時間の指導過程、観点別の評価規準等については、県の「学力向上プラン」における各事例を参考にし、児童の実態に応じてより充実した指導計画の作成に努めたい。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

特に歴史学習においては教室前面に年表を掲示し、それを日常的に活用した学習を進めたい。また、調べたことや考えたことをノートにまとめる作業や、仲間と共に交流し練り合う活動を単元指導計画に適切に位置づけ、児童が自分の考えを根拠に基づいて表現できるよう段階的な指導を継続していくことが大切である。